



学校図書館だより 6月号

令和4年6月
柏市立 小学校
柏市学校図書館指導員

はる なつ ひ び び も あ れ ば、 あ め ふ っ ひ おお
春から夏へ、日差しがまぶしい日もあれば、雨が降る日も多くなってきました。

6月は「梅雨」の季節と言いますが、この時期、梅の実が大きくみどり、熟する頃に降る雨という意味から「梅の雨」と書きます。この時期に見られる花や木、生きものなどを調べてみるのもいいですね。本を読むだけでなく、調べたいことがある時も、ぜひ、学校図書館を活用してみてください。



○天気【ことわざ】知っていますか？



これから雨が降るのかどうか？身の回りで起こるできごとから、雨を予想することわざがあります。このほかにも、雨や天気に関することわざはたくさんあります。調べてみてね。

- 「ツバメが低くとぶと雨」：湿度が高くなると小さな虫の羽は重くなって低くとぶ。その虫を食べようとツバメも低くとぶようになる。
- 「朝虹は雨、夕虹は晴れ」：朝の空に虹がかかっている時は次第に雨になり、夕方場合は晴れになる。
- 「夕焼けは次の白晴れ」：夕焼けで西の空が赤く見えるのは、西の空に雲がなく、すみわたっていることから、次の日は晴れになる。



※参考図書：「お天気博士になろう！⑥日本列島天気しらべ」渡辺一夫/文 ポプラ社

☆今月のおすすめ本☆

★「ぼくのだ！わたしのよ！ 3びきのけんかずきのかえるのはなし」

レオ=レオニ/作 谷川俊太郎/訳 好学社(絵本)

3びきのカエルは、自分がすわる岩や水、空気までもそれぞれが自分の物だと言い張り、けんかをして、ヒキガエルのおじさんにおこられます。ある日大雨が降り、居場所をなくしたカエルたちは、この後どうになってしまうのでしょうか。



★「みずとはなんじゃ」

かこさとし/作 鈴木まもる/絵 小峰書店(435)

みずは生き物にとって大事なものです。同時に、地球にとっても必要なものです。太陽の熱により、あたためられた海や川のみずが水蒸気になり、雲となり雨や雪を降らせます。



★「雨ふる本屋」

ひなた りえ子/著 童心社(913)

雨が降る日に、図書館に行ったルウ子は、カタツムリにみちびかれ、不思議な本屋にまよいこみます。そこで出会ったのは、店主のドードー鳥をはじめ、妖精やふしぎな人たち。ルウ子のおとどろき冒険の物語です。



☆図書館の約束守られていますか？

オリエンテーションで、図書館の使い方、約束事を確認しました。

みんなで使う場所、みんなで使うものは大切にしましょう。

本はもとのばしょにもどしましょう。



◎裏面に「第68回青少年読書感想文全国コンクール課題図書」の紹介をしています。